

例会記録

第51回神奈川地方会秋季例会・日本医史学会

合同例会

平成30年10月13日（土）

鶴見大学会館

I 推薦講演

1. ベスト菌DNAの進化から見たペスト流行史
加藤茂孝 先生
2. 琉球における全身麻酔下での口唇裂手術
桐生迪介 先生

II 特別講演

マルチン・ルターの病歴 滝上 正 先生

III 特別企画《医史からみた幕末・維新》

1. 西郷隆盛の体調不良問題とその背後にあったもの
家近良樹 先生
2. 特別ゲスト：竹内恵子さん

日本医史学会10月例会

平成30年10月27日（土）

順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

1. 神農の足跡を迎る

——医学・農業面で我が国に多大な影響を与えた中国の偉人—— 中村直行

2. 日本橋漬物商小田原屋主人早川佐七の本草書蒐集とその周辺：島田筑波・武田久吉・伊藤純一郎（杏雨書屋）との交流 吉川澄美

例会抄録

故医学士神田知二郎君紀念之碑からわかったこと

寺島 俊雄

神戸大学医学部キャンパス内の神緑会館に県立神戸医学校の校長で県立神戸病院の病院長であった神田知二郎の業績を顕彰する大きな石碑「故医学士神田知二郎君紀念之碑」がある。高さは3メートルほどもあるだろうか。この石碑は神戸大学医学部附属病院に隣接する広厳寺（別称 楠寺）境内にあったが、平成13年に医学部キャンパス内に移設されたものである。知二郎は安政元年8月8日に生まれ、明治13年に東京大学医学部を卒業した。同年10月公立姫路病院長に就任し、次いで明治15年3月に公立神戸病院附属医学所長に転じ、同年4月に県立神戸医学校の校長となる。さらに明治16年5月に県立神戸病院長を兼任する。知二郎が臨床と教育に精励したこともあり神戸医学校と神戸病院は発展する。ところ

が地方税を医学校の経営に支弁することを禁じた勅令48号（明治20年発布）により明治21年3月神戸医学校は他の多くの公立医学校とともに廃校となる。明治22年3月28日、もともと蒲柳の質であった知二郎は肺疾により享年36歳（満34歳）の若さで死亡する。この石碑の碑文は知二郎が東京大学医学部で学んだ当時の学部長の長と専斎の起草によるものである。碑文の内容はすでに発表済みであり（文献1）ここでは繰り返さないが、二点ほど疑問が残った。

その第一は「白栖村の先人の塋域に帰葬す」と碑文にある知二郎の墓の所在である。白栖村とは現京都府相楽郡和束町白栖であるが、それだけでは墓の位置の特定はできそうにない。しかし「巍峨たる笠置の山麓を滔々と流れる木津川の、